

Fiorand

Fiorano SOA プラットフォーム バージョン管理とデプロイメント ルール

対象バージョン: 2007 SP7 および 9.0.0



はじめに

このガイドブックは、Fiorano SOA プラットフォームにおけるバージョン管理とデプロイメント ルールについて説明するものです。

このガイド ブックは、以下のガイドブックで説明されている知識を有していることを前提としています。

- Fiorano SOA プラットフォームの起動方法
- Fiorano SOA プラットフォームのアーキテクチャ概要
- Fiorano オーケストレータによるビジネス プロセス構築の概要 (基礎編)

目次

1 デプロイメント管理の重要性	
2 コンポーネント フローのバージョニング	3
2.1 リポジトリ上での管理	
2.2 バージョン番号の付与方法	4
2.2.1 最初のバージョン	4
2.2.2 コメントの記入	6
2.2.3 バージョン アップ (新規バージョンの作成)	7
3. デプロイメント管理	9
3.1 デプロイメント ルール	9
3.1.1 ラベル	9
3.1.2 ルール シンタックス	
3.2 例題	
4. Deployment Manager の操作	14
4.1 Deployment Manager の起動	
4.2 ルールの設定方法	

 4.2.1 新規ルールの作成
 16

 4.2.2 ルールのテスト
 20



1 デプロイメント管理の重要性

Fiorano SOA プラットフォームの最も優れた特徴の一つは、ビジネス プロセス変更の柔軟性にあります。

ビジネス側の要求に俊敏に応えていくことは、既コンポーネント フローの絶え間ない変更を意味します。このことは、コンポー ネント フローの開発者によるバージョン管理のみならず、システム管理者によるコンポーネント フローのデプロイメント管理 が重要であることを示しています。

Fiorano SOA プラットフォーム は、コンポーネント フローのデプロイメントを信頼のおける方法で実行する強力なツールを備 えています。Deployment Manager と呼ばれるこのツールは、ルール エンジンをベースとしたもので、本番環境での実行ル ールにしたがってコンポーネント フローやサーボス コンポーネントを指定されたピア サーバーに確実に間違いなくデプロイ します。

このガイドブックでは、Studio におけるコンポーネント フローのバージョニングと Deployment Manager によるデプロイメント管理の方法を説明します。

2 コンポーネント フローのバージョニング

2.1 リポジトリ上での管理

コンポーネント フローには、開発者が任意のバージョン番号を付けて、ESB サーバー (Enterprise Server) のリポジトリに 格納することができます。

バージョンの番号付けルールと保存フォルダー (カテゴリ)の作成ルールを工夫することで、より効果的な管理が行えるよう になります。

次の例 1 では、バージョン番号 1.x が開発中のバージョンを、2.x がテスト中のバージョンを示すようルールを設定しています。また、コンポーネント フローの保存フォルダー (カテゴリ) を、開発中、テスト中などのステージ別に分けています。さらに、ステージ カテゴリの下にコンポーンネント フロー毎のサブ カテゴリを設けています。

例 1





例 2 では、バージョン番号のルールは 例 1 と同じですが、カテゴリをコンポーネント フロー毎に設け、その下にステージを 区分けするサブ カテゴリを設定しています。

例 2



[注意]

コンポーネント フローが実行される際には、GUID (コンポーネント フローの名前) とバージョン番号によって識別され、リポ ジトリの格納場所 (カテゴリ) は識別の対象となりません。したがって、カテゴリが異なるからといって、同じ GUID とバージョ ン番号を持つコンポーネントを 2 つ以上のカテゴリに置くことはできません。

例えば、「開発中」カテゴリにコンポーネント フロー "DB_Sync 1.0" を置き、「テスト中」カテゴリにも "DB_Sync 1.0" を 置くことはできません。別の言い方をすれば、開発中のバージョン 1.0、テスト中のバージョン 1.0 という番号付けルールは 使用できないということです。

[注意]

バージョン番号として許されているのは、0 から 99 まです。ピリオド (小数点) 以下も、0 から 99 までです。ただし、0.0 はバージョン番号として許されていません。

2.2 バージョン番号の付与方法

2.2.1 最初のバージョン

コンポーネント フローを新たに作成する方法には、次の 2 つがあります。

- ▶ スクラッチから作成
- > 既存のコンポーネント フローを利用 (コピー) することで作成

スクラッチから作成する場合

下のキャプチャ画面のように Event Process Repository の下の Event Processes ノードを右クリックして、[追 加 Event Process] を選択します。



エクスプロ-ラ	√D ×	🔀 Enterprise Serve	er ×
🔀 Enterprise Serv	ver	(→ → → → /	- 🗰 📰 💷
📄 🗇 📋 Event Process	Repository		
🗄 🗄 😼 Event Pres			Catego
Labels	追加 Event	Process(<u>A</u>)	
🕀 📄 Peer Reposit	Open Event	Process	
🗄 🗐 Service Repo	Import Even	t Processes	
田… 🏪 セキュリティ 🕒			1

次のダイアログ ボックスが表示されます。このダイア ログ ボックスでは、次の項目を指定します。

GUID : 全体で一意のコンポーネント フロー名 (大文字と一部の記号)

Display Name : ツールなどに表示される名前 (GUID と同一の名前であるが小文字も可)

Categories : リポジトリに格納される際のカテゴリ (フォルダー)

サブ カテゴリは . (ピリオド) で区切って指定する

例 : カテゴリ.サブ.サブサブ

Version : バージョン番号 (デフォルトの番号は 1.0)

ここで、初期バージョン番号を指定することができます。

E	Customize	Event Process			×	
(GUID	DB_SYNC_A		Version 1.0	1	
I	Display Name	DB_Sync_A				
(Categories	DB_Sync_A.開発中		•		バージョン番号
				OK Orman	1	
			カテゴリの指定		1	

[[OK] ボタンをクリックすると、新規のコンポーネント フローが作成されます。ただし、中身は空です。

既存のコンポーネント フローを利用 (コピー) することで作成する場合

既存のコンポーネント フローを利用して最初のバージョンを作成する場合には、利用するコンポーネント フローを右クリック し、メニューから [Save as ...] を選択します。

」エクスプロ-ラ ·□ ×	🔀 Enterprise S	Serve	er ×			
Enterprise Server] ⇔ • ⇒ •	ø -				
Event Processes (38)			GUID	Display Name	Version	Alive
⊕ NE (6)	여읍DB_SYnc 여읍DB Sync Et		_መ ኑወ	Ctrl+X	10 h	いいえ いいえ
⊞	CB_Sync_J		⊐ピー©)	Ctrl+C	5	いいえ
🗈 🖳 ユーザー (7)	HC DBQuery		ペースト(<u>P</u>)	Ctrl+V	2	いいえ
Labels	어급 DBtoDB 어급 Script		 削除(<u>D</u>)	Delete	— D	いいえ いいえ
⊕ Peer Repository ⊕	여읍 Work_list		名前を変更 		_p	いいえ
□ 🕒 セキュリティ			猒			
			Save as			
			Export			



次のダイアログ ボックスが表示されますので、必要な情報を入力します。

🗾 Customize	Save as	×
GUID	DB_SYNC_A	Version 1.0
Display Name	DB_Sync_A	
Categories	DB_Sync_A.開発中	T
		OK Cancel

GUID : 全体で一意のコンポーネント フロー名 (大文字と一部の記号)

Display Name : ツールなどに表示される名前 (GUID と同一の名前であるが小文字も可)

Categories : リポジトリに格納される際のカテゴリ (フォルダー)

サブ カテゴリは . (ピリオド) で区切って指定する

例:カテゴリ.サブ.サブサブ

Version : バージョン番号 (デフォルトの番号は 1.0)

ここで、初期バージョン番号を指定することができます。

[OK] ボタンをクリックすると、次の画面のようにコンポーネント フローが作成されます。コンポーネント フローの内容は、元のフローと全く同じです。



2.2.2 コメントの記入

コンポーネント フローには、コンポーネント フローについての説明を記述することができます。これを利用して、バージョンの 毎の説明や前バージョンからの変更点を記しておくことができます。

説明を記述するには、[Help] タブをクリックします。



ページ - 6 - Fiorano Software Kabushiki Kaisha. Copyright 2009. All rights reserved.



Help の内容は自由に記述できます。

g	🔀 Enterprise Server 🔺 🛃 DB_SYNC_A:1.0 * ×
ucti	Design Source Help
St	2008年 5月17日 DB_Sync 1.0 から生成 (田中 太郎)

2.2.3 バージョン アップ (新規バージョンの作成)

新たなバージョンを作成するには、元とするバージョンのコンポーネント フローを右クリックし、メニューから [Save as ...] を 選択します。

」エクスプロ-ラ ·□ ×	🔀 Enterprise Server 🛛 ×	C 🔀 DB_SYNC_A:1.0 *	* ×]		
K Enterprise Server]				
Event Process Repository	GU		Display Name	Version	Alive
	et≌DB_Sync_A	カット① コピー©) ペースト(P) 削除(D) 名前を変更 開K		Ctrl+X Ctrl+C Ctrl+V Delete	LULIŽ
🕀 🧻 Service Repository		Save as			
□…№ セキュリティ		Export			

表示されるダイアログ ボックスに値を入力します。下のキャプチャ画面では、バージョン番号を 1.1 に変更し、カテゴリをプ ルダウン メニューから選択しています。

🚺 Customize	Save as		×
GUID	DB_SYNC_A	Version 1.1	
Display Name	DB_Sync_A		
Categories	User Processes		-
	A DB_Sync_A 合意 開発中 同時 1000 の目的 1000 0000 0000 0000 0000 000000000000		
	🧏 Samples		
	Financial		
	Mortgage		
	🔄 🦰 Portals		*

[OK] ボタンをクリックすると、次の画面のようにバージョン 1.1 が作成されます。

」エクスプロ-ラ ·□ ×	🔀 Enterprise Server 🛛 🖁 DB_SYNC_A:1.0	* ×		
Enterprise Server] ⇐ ▪ ⇒ ▪ 🤣 ▪ 🔠 📰 🔢			
Event Processes (40)	GUID	Display Name	Version	Alive
	📲 DB_Sync_A	DB_Sync_A	1.1	いいえ
⊡ 開発中 (2)	여울DB_Sync_A	DB_Sync_A	1.0	いいえ
🖻 🖻 🔁 NE 🚯				
🗄 🕮 Samples (3)				



コンポーネント フローを開き、[Help] タブを選択します。旧バージョンの Help 記述もコピーされていますので、このバージョンに対する説明を追記します。

```
    Finterprise Server × 園 DB_SYNC_A:1.1 * ×
    Design Source Help
    2008年 5月17日 DB_Sync 1.0 から生成 (田中 太郎)
    2008年 5月20日 エラーフローを追加(鈴木 一郎)
```



3. デプロイメント管理

Fiorano SOA プラットフォーム には、指定されたルールに基づいてコンポーネント フローをデプロイメントする Deployment Manager が備わっています。Deployment Manager は、ルールを解釈し、実行するルール エンジンです。

3.1 デプロイメント ルール

Deployment Manager のルールは、GUID、バージョン番号、ラベル の 3 つをデプロイメント条件に使用します。

3.1.1 ラベル

すべてのコンポーネント フローおよびサービス コンポーネントには、ラベルが付けられています。 コンポーネント フローとユーザーが開発したサービス コンポーネントには、下記のラベルを任意に選択して変更することがで きます。

- Development : 開発中 (デフォルトのラベル)
- ▶ QA : テスト中
- ▶ Staging : ステージング (本番待機中)
- ➢ Production : (本番用)

Fiorano 社がプリビルトして製品に組み込んでいるサービス コンポーネント (プリビルト コンポーネント) は、Production の ラベルが付いており、これを変更することはできません。

コンポーネント フローのラベル変更

コンポーネント フローのラベルを変更するには、コンポーネント フローを開き、表示されるプロパティ ウィンドウで指定します。 [Label] 項目の入力エイリアのプルダウン メニューからラベルを選択します。

ዲ 김 김 🛗 🗎 🕨 🖭 🔲	route1 	schemas doesn't match
	Properties of Event Process	
P P FileWriter1 route4 ↓ SMTP1 P SMTP1	Properties of Event Process Image: set of Event Process <th>DB_SYNC_A 1.1 Development Development QA Staging Production null 100</th>	DB_SYNC_A 1.1 Development Development QA Staging Production null 100
	Label Event Process label determin has evolved to. This is one of Deployment Manager	es the stage to which the Event Prod f the building blocks for rules created



サービス コンポーネントのラベル

サービス コンポーネントのラベルは、エクスプローラ ウィンドウで Service Repository → Registered Service と 展開すると、システムに登録されているサービス コンポーネントがカテゴリ別に表示されます。登録済みのユーザー開発コン ポーネントもここに表示されます。コンポーネントを選択し、Deployment ノードを選択すると、右側のプロパティ ウィンドウ にコンポーネントの Label が表示されます。

下のキャプチャ画面は、DB コンポーネントの Deployment を選択した状態です。Label が PRODUCTION になっている ことがわかります。(すべて大文字表示なっていますが、ラベルは大文字、小文字を区別しません。)



3.1.2 ルール シンタックス

ルールのシンタックスは、次の図のように表すことができます。



図中水色で示している対象 (サービス コンポーネント、コンポーネント フロー、ピア サーバー) の指定は、省略することがで きます。

例えば、すべての対象を指定したルールは、(文章で表すと)次のようになります。

『 GUID が "ABC" のコンポーネント フローに含まれる、GUID が "XYZ" のコンポーネントを、ピア サーバー FPS1 ヘデプロイメントすることを許可しない 』



この例は、サービス コンポーネント単位のデプロイメント条件となります。

サービス コンポーネントを省略したルールの例は、次のようになります。

『 ラベル "Development" のコンポーネントを、ピア サーバー FPS ヘデプロイメントすることを許可しない 』

このルールではコンポーネント フロー単位の条件となり、そこに含まれるサービス コンポーネントはすべて一様にデプロイメントが許可されません。

ピア サーバーを省略したルールの例は、次のようになります。

『 GUID "ABC" のコンポーネント フローのデプロイメントを許可しない 』

また、対象を識別するための識別条件は複数指定できます。例えば、

『 GUID が "ABC" で、ラベルが "Development" と "QA" と "Staging" 』 といった指定が可能です。

このように、ルール対象を省略するほど、ルールの適用範囲が広くなります。ルール対象や識別条件を多く指定するほど、ル ールは複雑になり、適用範囲も広くなります。

ルールの順序

ルールは、複数設定できます。複数のルールが設定されている場合、次のフローチャートにようの設定の古い順に解釈され、 合致したルールが適用されます。すべてのルールに合致しなかった場合には、デフォルトのルールが適用されます。



デフォルト (なにもルールが設定されていない状態) では、すべてのサービス コンポーネント、コンポーネント フローがどの ピア サーバーへもデプロイメントが許可されています。



3.2 例題

例題 1

下図のように開発環境と本番環境が別個に設けられています。開発およびテストが完了したコンポーネント フローは、開発 環境からエクスポートし、本番環境にインポートされます。



開発環境からテスト未完了のコンポーネントが間違ってエクスポートされてきてもいいように、本番環境のデプロイメント ルー ルを定めます。

まず、開発およびテストが完了したコンポーネント フローのラベルは必ず "PRODUCTION" に変更するという運用ルールを 定めます (これは、Fiorano SOA でシステム的に定めることはできず、人的な作業でカバーします)。次に、本番環境のデプ ロイメント ルールとして、『ラベルが "PRODUCTION" コンポーネント フローのみを許可する 』を設定します。

『すべてを許可』というのがデフォルトのルールですので、このデフォルト ルールが適用されないようにします。

『 ラベル "PRODUCTION" のコンポーネント フローを許可 』というルールを設定しても、このルールに合致しないコンポー ネント フローも最後にデフォルトのツールが適用され、すべてのコンポーネント フローのデプロイメントが可能となってしまい ます。前セクションのフローチャートを参照してください。

この例題のルールは、

『 ラベルが "Development"、"QA"、"Staging"のコンポーネント フローは許可しない 』 とする必要があります。

このルールによって、"PRODUCTION" 以外のラベルを持ったコンポーネント フローはデプロイメントできなくなります。"PRODUCTION" ラベルのコンポーネント フローは、このルールに合致せず、デフォルトのルールによって許可されることになります。

このルールでは、ラベルが "PRODUCTION" であれば、どのコンポーネント フローもデプロイメントできます。特定のコンポ ーネント フロー (例えば GUID が "ABC") のみを許可する場合には、さらに細かなルールを設定します。 これを可能とするルールは、次のように 2 つのルールを設定する必要があります。



次の順番でルールを設定します。

1. 『 GUID "ABC"、ラベル "PRODUCTION" のコンポーネント フローを許可する 』

2. 『 ラベル "DEVELOPMENT"、"PRODUCTION"、"QA"、"STAGING"のコンポーネント フローを許可しない 』

例題 2

下に示すコンポーネント フロー "DB_Sync" をデプロイメントするルールを考えます。



コンポーネント フローは、FPS と FPS1 という 2 つのピア サーバー上で実行されます。ピア サーバー FPS1 が稼動しているマシンでは、データベースも稼動しています。処理パフォーマンスを考慮し、FPS1 は DB コンポーネント専用のピア サーバーとします。



設定するルールは、FPS1 上に DB コンポーネント以外のコンポーネントがデプロイメントできないようにするルールです。

1. 『 GUID "DB" のコンポーネントを "FPS1" にデプロイメントすることを許可 』

2. 『 すべてのサービス コンポーネントの "FPS1" へのデプロイメントを許可しない 』

この 2 つのルールによって、DB コンポーネント以外のコンポーネントが FPS1 にデプロイメントされることが防げます。これをベースにさらなる条件を追加していくことで、より細かな管理が行えます。



4. Deployment Manager の操作

4.1 Deployment Manager の起動

Deployment Manager は、スクリプト dm.bat (Unix / Linux 版の場合は、dm.sh) によって起動できます。

場所

<インストール ディレクトリ>/esb/tools/dm/bin

Windows 版では、スタート メニューからも起動できます。

庙 プログラム(P) 🕨 🕨	🖬 Fiorano	🕨 🛅 Fiorano SOA 2007 Platform SP6	🕨 🛅 Fiorano ESB Console	•
🙆 最近使ったファイル(D) 🔹 🕨	Mozilla Firefox	🕨 🛅 FioranoMQ 2008 SP2	🕨 🛅 Fiorano Servers	▶
🕑 設定(S) 🕨 🕨	🛅 アクセサリ	•	🖬 Fiorano Tools	🕨 🔍 Fiorano Deployment Manager
	🚮 秀丸		🤌 Fiorano Web Console	😭 Fiorano Event Manager
② ヘルプとサポート(H)	🛅 BUFFALO	•	×	📲 🔐 Fiorano Services and Security Manager
ファイル名を指定して実行(R)	×			📕 🜆 Fiorano Network Administration Tool 🗌
	run			📕 Fiorano Studio

Deployment Manager が起動すると、次のログイン画面が表示されます。入力情報については、下記を参照してください。 ESB サーバーが起動していないとログインできませんので、注意してください。

🤹 F	iorano Deploymen	t Manager	×
	Ente	rprise Server Login	
E	nterprise Server URL	tsp_tcp://yoda:1947	
U	lser Name	admin	
P	assword	******	
([Default Login: admin/pa	asswd) 🔽 Remember Me	
	Proxy Settings	Ok Cancel	

Enterprise Sever URL

ログインする ESB サーバー (Enterprise サーバー)の URL を指定します。

デフォルト値として、次の値があらかじめ設定されています。

tsp_tcp://localhost:1947

デフォルトの ESB サーバー コンフィグレーションでは、各ツールは ポート 1947 に TCP プロトコルによって接続するよう 設定されています。ESB サーバーのコンフィグレーション設定を変更している場合は、それに合わせて URL を変更します。 また、別マシン上の ESB サーバーにログインする場合には、localhost ではなく、ESB サーバーの IP アドレス (またはリ モート ホスト名) を指定します。

User Name, Password

登録されているユーザー名とパスワードを指定します。デフォルト設定では admin ユーザーとパスワード "passwd" でログ インできます。



Proxy Settings

プロキシ サーバーを介して ESB サーバーに接続する場合には、[Proxy Settings …] ボタンをクリックします。表示さ れるダイアログ ボックスに、プロキシ サーバーへの接続情報を入力します。

情報を入力したら、[Ok] ボタンをクリックし、最初のログイン画面に戻ります。

Proxy Settings
I Use proxy server
Address
Port 80
User Name
Password
Ok Cancel

ログインに成功すると、次の画面が表示されます。初期状態では、ルールはなにも設定されていません。

🤹 Fiorano Deployment Manager			
Actions View Help			
Available Rules (Default rule is Allow)			
			New
			Modify
			Сору
			Remove
			Test
			Refresh
			Move Up
			Move Down
Rule Description (click on a blue link to edit it)			
There is no rule selected.			
	🚱 admin	Connect	disconnect



4.2 ルールの設定方法

前章で説明した例題を例にして、ルール設定の方法を説明します。

例題 1 のルールを設定します。例題 1 のルールは次の 2 つからなっています。

- 1. 『 GUID "ABC"、ラベル "PRODUCTION" のコンポーネント フローを許可する 』
- 2. 『 ラベル "DEVELOPMENT"、"PRODUCTION"、"QA"、"STAGING"のコンポーネント フローを許可しない 』

4.2.1 新規ルールの作成

[New] ボタンをクリックすると、ルール作成ウィンドウが表示されます。

🗳 New Rule	×
⊙ Allow ⊂ Disallow	
Execution of Business Component[s]	
where business component guid contains guid	_
where business component version matches version	
where business component label contains label	
As part of Event Process[s]	
where event process guid contains guid	
where event process version matches version	
where event process label matches label	
On peer server(s)	
where peer server name contains name	
where peer server label contains label	
Rule Description (click on a blue link to edit it)	_
Allow	
Name of the Rule	
	-
Ok Cancel	

まず、最初のルールである『 GUID "ABC"、ラベル "PRODUCTION" のコンポーネント フローを許可する 』を作成しま す。

許可するルールであるため、最上段にある [Allow] を選択します。





次に、コンポーネント フローの条件を指定します。条件は、GUID とラベルとなっていますので、中断にある [As part of Event Process(s) の [where event process guid contains guid] のチェックボックスをチェックします。 続いて、[where event process label matches label] をチェックします。

👊 New Rule	×
Allow Disallow Execution of Business Component[s]	
 where business component guid contains guid where business component version matches version where business component label contains label 	
As part of Event Process[s]	
 where event process guid contains guid where event process version matches version where event process label matches label 	
On peer server(s)	

上の画面のようにチェックすると、下段にある Rule Description (Click on blue link to edit it) のペイン が次のキャプチャ画面ように表示されます。



青字となっている guid をクリックします。次のようにコンポーネント フローの GUID を指定するダイアログ ボックスが現れ ます。ここでは、DB_Sync をチェックします (例題では、GUID を特定していませんでしたが、便宜上 DB_Sync を指定しま す)。[Ok] ボタンをクリックして確定します。

Event Process Selection Dialog	×
Available Event Processs	
	
AUTH_LOGIN	
BOND_TRADING	
BUSINESS_FLOW_1	
BUSINES_FLOW2	
CACHE_AUTH_SESSIONS	
	–
Selected Items:	
DB SYNC	
-	
	1
Select All Clear Selection Ok	Cancel



Event Process Label Selection Displayed Selection	ialog X
Available Event Process Labels	
Development	
Production	
Selected Items:	
Production	
1	
Select All Clear Selection	Ok Cancel

同様に、label をクリックして、ラベルを指定します。Production をチェックし、[Ok] ボタンをクリックします。

Rule Description (Click on blue link to edit it) のペインは、次の画面のように変更されます。

ļ	Rule Description (click on a blue link to edit it)
	Allow as part of event process[s] where event process guid contains DB_SYNC and where event process label matches <u>Production</u>

最後にルール名を指定します。最下段の Name of the Rule ペインに任意の名前を指定します。下の画面では、"A" として いますが、ルール内容がわかる名前のほうがよいでしょう。

Allow as part of event process[s] where event process guid contains DB_SYNC and where event process label matches Production	
Name of the Rule	
A	
	Ok Cancel

[Ok] ボタンをいクリックすれば、ルールが作成されます。



🍕 Fiorano Deployment Manager	_ 🗆 🗡
<u>Actions</u> <u>View</u> <u>H</u> elp	
Available Rules (Default rule is Allow)	
A	New
	Modify
	Сору
	Remove

次に、『 **ラベル** "DEVELOPMENT"、"PRODUCTION"、"QA"、"STAGING" のコンポーネント フローを許可しない 』 ル ールを作成します。

[New] ボタンをクリックして、ルール作成ウィンドウを表示します。

このルールでは、[Disallow] を選択し、[where event process label matched label をチェックします。

🥵 New Rule	×
O Allow 💿 Disallow	
Execution of Business Component[s]	
where business component guid contains guid	
where business component version matches version	
│ □ where business component label contains label	
As part of Event Process[s]	
where event process guid contains guid	
where event process version matches version	
where event process label matches label	
On peer server(s)	
where peer server name contains name	

Rule Description (Click on blue link to edit it) のペインで、青字で表示されている label をクリックし、 ラベル指定のダイアログ ボックスを表示します。すべてのラベルをチェックし、[Ok:] ボタンをクリックします。

Available Event Process Labels			
✓ Development ✓ Production ✓ QA ✓ Staging			
✓ Production ✓ QA ✓ Staging			
Selected Items:			
Development, Production, Q.A. Staging			
Select All Clear Selection Ok Cancel			



このルールに名前を付け、[Ok] ボタンで確定します。

Rule Description (click on a blue link to edit it)			
Disallow as part of event process[s] where event process label matches Development, Production, QA, Staging			
Name of the Rule			
la Internet and the second sec			
	Ok	Cancel	

これで、2 つのルールが設定できました。

🎐 Fiorano Deployment Manager	
Actions View Help	
Available Rules (Default rule is Allow)	
A	New
B	
	Modify
	Сору

4.2.2 ルールのテスト

Deployment Manager には、作成したルールのテスト機能が備わっています。

[Test ...] ボタンをクリックし、テスト条件を指定するダイアログ ボックスを表示します。

🐝 Test 🔀 🔀
Deployment Permission C Composite Permission
Business Component
GUID Aggregator
Version 4.0 Version Label Development
Event Process
GUID AUTHENTICATION
Version 1.0 Label Development
Peer Server
Name fps 🔽 Label Development 💌
Verify Close

Event Process の欄で、GUID のプルダウンメニューから DB_Sync を選択します。



👊 Test		×
Deploy	ment Permission	C Composite Permission
Business	Component	
GUID	Aggregator]
Version	4.0 Label Development	-
Event Pro	cess	
GUID	AUTHENTICATION	-
Version	CACHE_AUTH_SESSIONS COMPOSITEBC_DEMO	_
Peer Serv	,CSV_XML_DB	
Name f	DATABASE_REPLICATION	
L	DBTODB	
	DB_SYNC	
	DB_SYNC_ERRLISTNER	

次に、Label のプルダウン メニューから Production を選択します。

🕵 Test 📃 🕺
Deployment Permission O Composite Permission
Business Component
GUID Aggregator
Version 4.0 Version Label Development
Event Process
GUID DB_SYNC
Version 1.0 Version Label Development
Peer Server Production
Name fps 🔽 Label QA
Staging
Verify Close

次の画面のように設定したら、[Verify] ボタンをクリックします。



🗣 Test 🔀
Deployment Permission O Composite Permission
Business Component
GUID Aggregator
Version 4.0 T Label Development
Event Process
GUID DB_SYNC
Version 1.0 Clabel Production
Peer Server
Name fps 💌 Label Development 💌
Verify Close

次に示すようにテスト結果が表示されます。表示内容は、ルール A によって許可されたことを示しています。

R	Result		
	Rule	Result	
	A	Allow	
	в	Disallow	
1			
Result: Allowed by "A"			
了解			

次のテスト結果は、上記とは異なるコンポーネント フローを指定してテストをしたものです。 ルール B によってデプロイメントが許可されなかったことが分かります。



Rule	Result	
A	Not applicable	
В	Disallow	
Result: Disallow	by "B"	
	-, -	

次のエラー メッセージは、ラベルが Production となっていない DB_Sync を実行しようとした際に表示されるものです。

🚺 例外	(10))	×
8	fiorano.tifosi.common.TifosiException	
	[Application Controller]Deployment permission denied for Service GUID: DB, Service Ver : 4.0, Service Label: PRODUCTION, App GUID: DB_SYNC, App Ver: 1.0, App Label: Development, Peer Server GUID: fps, Peer Server Label: Development	
	閉じる	
I4 4	1の1 トト	8

ラベルが Development となっているため、デプロイメントが許可されなかったことが分かります。